

# 可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性

張 素 娟

## Abstract

In this paper, we pay attention to factors in the possibility of movement or state and view the characteristic of meaning and the difference between ‘neng’ and ‘hui’. ‘neng’ and ‘hui’ can both express the meaning of ‘have the possibility’. In conventional research, the characteristics of meaning of each when both express the meaning of ‘possibility’ are not analyzed enough. In this paper, we pay attention to factors in the possibility of movement or state, and analyze the characteristics of the meaning of both, and classify both into two groups as when matters can be controlled by subjective intention and when matters cannot be controlled by subjective intention, and define the difference of ‘neng’ and ‘hui’. As a result, we understand that we use ‘neng’ when we emphasize external conditions, and use ‘hui’ when we emphasize subjective intentions or the working of the situation. Furthermore, we also try to assess the conclusion as was pointed out in conventional research that ‘neng’ has forwardness but in occasion of expressing non-expected negative images, we use ‘hui’.

キーワード……外的条件 主体的意志 状況の働き 焦点 文脈

## 1 はじめに

周知のように現代中国語における“能”と“会”はともに「可能性」<sup>1)</sup>を表すことができる。しかし、両者は常に置き換え可能とは限らない。また、形式的に置き換え可能な場合も、意味的相違が観察される。

- (1) 为了{能/\*会}<sup>2)</sup>买到回老家的火车票，他排了一夜的队。  
(帰省の切符を手に入れるために、彼は一晩中並んでいた。)
- (2) 如果我想要 99 朵玫瑰，你{能/会}买给我吗？  
(私が 99 本のバラがほしいと言ったら、買える？)

(1)では両者は置き換えられない。(2)では両者は形式的には置き換えられるが、“能”を用いる

可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性（張素娟）

場合は、「99本のバラ」を買う経済力の有無を問い、“会”を用いる場合は、「99本のバラ」を買う気持ちの有無を問う。

このように“能”と“会”は互いに独自の意味を持ちながら重なり合う部分も存在している。可能性を表す場合における両者の使い分けに関する記述は先行研究で時々見られる(黄麗華 1995、渡辺麗玲 2000、魯晓琨 2003)。とりわけ、魯晓琨 2003 では多くの事例に基づき、可能性における“能”と“会”の使い分けから詳しく分析され、両者の使い分けに対する理解を深めることに大きく貢献した。しかし、依然として説明し難い事例が残されている。また、両者の意味特性に対する記述にも疑問が生じる点がある。そこで本稿では、事柄における動作・状態の可能に必要な要因の視点から両者の意味特性を再考察し、その使い分けを明らかにしたい。

## 2 先行研究及び問題の所在

本章では「可能性」を表す場合の“能”と“会”の使い分けに関する主な先行研究及びそれぞれの問題点を概観する。

黄麗華 1995:86 では、“能”の基本的意味は「状況が一定のレベルまで達する」、「会」の基本的意味は「事柄が自然に成立する」と述べられている。この定義は両者の意味特性を簡潔にまとめられているが、使用条件について詳しく述べられていないため、反例も多く見られる。

(3) 你的意见我{会/\*能}考虑的。(CCL)

(あなたの意見について考えておくよ。)

(3)では“会”が用いられているが、「あなたの意見について考えておく」という事柄が自然に成り立つとは考えにくい。ここでは「私はあなたの意見を考える気持ちがある」という主体的意志を表すと考える。

また、渡辺麗玲 2000:152 では事柄の実現及び生じる可能性を表す場合は、両方が用いられるが、非期待的な事柄を表す場合には“会”しか用いられないと述べられている<sup>3)</sup>。しかし、(1)からすでに分かるように“能”と“会”は常に置き換え可能とは限らない。

さらに、魯晓琨 2003:25 では、“能”と“会”を用いる文を「NP+ “能” / “会” +VP」<sup>4)</sup>と表記し、NP が VP をコントロールできるかどうかにより、“能”と“会”の使い分けについて分析されている。

(4) 他只要有 100 块钱, 就 {能/\*会} 弄一辆车。(鲁晓琨 2003:47)

NP

VP

(彼は 100 元さえあれば、車一台を手に入れることができる。)

(5) 只要做好宣传, 很多人都 {能/会} 立即认识到你们这项工作的意义。(鲁晓琨 2003:156)

NP

VP

(宣伝さえよくすれば、多くの人は直ちにあなたたちのこの仕事の意味を認識できる。)

(4)では、魯晓琨 2003:47 によると、話者が車の価格という客観的事実により「VP “能” NP」と判断した場合、“会”と置き換えることができない<sup>5)</sup>。(5)では、魯晓琨 2003:155-157 によると、NPはVPをコントロールできない。この場合は、VPが生じるまたは存在するのはある種の条件に関わっている。“能”も“会”もある種の条件により、ある種の状況が生じるまたは存在することを推測する意味を表すことができるため、両者は置き換えることが可能であると述べられている。確かに、NPがVPをコントロールできるかどうかにより、“能”と“会”には異なる意味特性が観察される。ところが、以下の用例を観察しよう。

(6) 一走进车站大厅，就<sup>{能/会}</sup>看到一间民工专用候车室。(CCL)

(駅の中に入ると、すぐに出稼ぎ農民専用の待合室が見える。)

(7) 肉香气从家里一直飘进楼道，人人走进楼道都<sup>{会/?能}</sup>不由自主深吸一下鼻子。(CCL)

(肉の香りは家から建物の通路まで漂ってきて、通路に入る人々は皆思わず一度鼻で深く香りを吸う。)

(6)では、駅に出稼ぎ農民専用の待合室があるという客観的事実により「待合室が見える」ことが実現できると判断しているにもかかわらず、“会”が用いられる。また、(7)では、「思わず鼻で香りを吸う」ことはコントロールできないことであるが、“能”は不自然である。

本稿では、魯晓琨 2003 を中心に、対照的な観点から黄麗華 1995、渡边丽玲 2000、魯晓琨 2003 が言及していない“能”と“会”の異同を明らかにする。

### 3 「可能」の要因及び本稿の考察対象

“能”と“会”は中国語の可能表現の一つの形式である。「可能表現」は、すなわち事柄における動作・状態が可能かどうかを問題にする表現である<sup>6)</sup>。事柄における動作の遂行や状態の成立が可能になるには主に次の要因がかかっていると考えられる。

#### i. 能力・機能があるために可能

(8)他<sup>{能/会}</sup>游泳。(彼は泳ぐことができる。)

(9)金属<sup>{能/\*会}</sup>导电。(金属は電気を伝えることができる。)

#### ii. 容認されているために可能

(10)这里<sup>{能/\*会}</sup>游泳。(ここで泳ぐことができる。)

#### iii. 外的条件があるために可能

(11)材料已经都买齐了，今晚她<sup>{能/?会}</sup>做法国菜给我们吃。(渡边丽玲 2000:154)

(材料が揃ったので、今晚彼女はフランス料理を作ってくれる。)

#### iv. 主体的意志<sup>7)</sup>があるために可能

(12)除非破产，否则我一定<sup>{会/?能}</sup>坚持下去。(CCL)

(破産しない限り、私は必ず続けていく。)

可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性（張素娟）

v. 状況の蓋然性(13)・必然性(14)があるために可能

(13)我猜他八成{会/能}去。(彼はおそらく行くだろうと思う。) (CCL)

(14)水在摄氏 100 度时{会/能}沸腾。(水は摄氏 100 度で沸騰する。)

(i)-(v)は動作・状態可能の要因であると考えられる。もちろん、どれほど能力或いは機能を持っていようと、外的条件がなければ、動作の遂行や状態の成立が可能になるとは考えられない。また、どんなに外的条件があつて、意志願望が強くても、動作主の希望通りに事を運ぶこと無しでは、動作・状態の可能は実現できない。すなわち、動作・状態の可能は上記の諸要因の相互作用による結果である。また、上記の要因は決して互いに独立して存在しているとは限らない。とりわけ、(i)の有情物の能力条件・無情物の機能条件は(ii)-(v)の条件が存在する前提である場合が多い。(10)では、「騒がしくする」前提としては、「騒ぐ」身体能力があること。その能力がなければ、容認する必要もなくなる。(11)-(14)も同じである。(11)では「彼女はフランス料理を作る能力があること」、(12)は「続ける身体能力がある」、(13)は「彼は行く身体能力があること」、(14)は「水は沸騰しうる」ことを前提に述べているのであろう。また、(13)の状況の蓋然性の要因と(14)の状況の必然性の要因を合わせて本稿ではそれを「状況の働きかけ」と命名することとする。

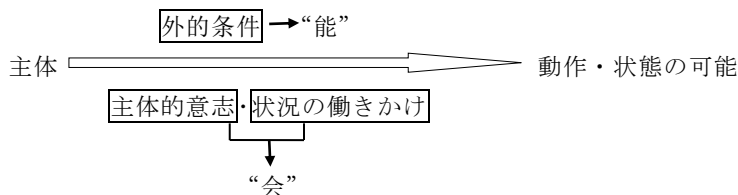
以上の分析から分かるように、可能の要因は単独で存在しているわけではない。しかし、(8)-(14)で見られるように、諸要因のいずれに焦点を当てるかによって、“能”と“会”を細かく使い分けている。

(ii)-(v)の諸要因のうち、(i)は「能力」を表す場合の可能、(ii)は「許可」を表す場合の可能、(iii)、(iv)、(v)は本稿の研究範囲<sup>8)</sup>である「可能性」を表す場合の可能である。前述で分かるように「可能性」を表す場合だけを研究対象にしても「能力・機能」という前提条件が関わっていることが多いので、本稿では、「能力・機能」という要因を考察せず、「可能性」に関わる諸要因を中心に分析しながら、両者の意味特性を解明したい。

## 4 提案

前章の可能性に関わる要因の分析を踏まえ、本稿では、動作・状態の可能における“能”と“会”の意味特性と使い分けの関係を図示したものを図1に提案する。

図 1



言い換えれば、動作・状態の可能の要因となる外的条件、主体的意志、状況の働きかけなどのうち、外的条件が備わっているために動作・状態が可能であることに焦点を当てる場合は、“能”<sup>9)</sup>が用いられ、主体的意志または事柄の蓋然性・必然性という状況の働きかけのために動作・状態が可能であることに焦点を当てる場合は“会”が用いられる。

この提案が、実際の例をどのように捉えるか具体的に見てみたい。はじめに、第2章で提示した先行研究の説明のできない反例((3)、(6)、(7))を考察しよう。

(15) 你的意见我{会/\*能}考虑的。

(あなたの意見について考えておくよ。)(=(3))

「考える」ことを可能にするためには、考える能力、考えられる環境(外的条件)、または考える意志があることが必要とされる。考える能力と外的条件はとくに何かの状況を明示しない限り、一般的には考える意志が一番際立っている要因である。したがって、“会”を用いるのが適切である。しかし、以下の場合には、“能”を用いることが適切である。

(16) 只有经过审理、充分取证后，才能考虑放人。(CCL)

(審理をし、十分な証拠を取ってはじめて釈放が考えられる。)

(16)では、「審理をし、十分な証拠を取る」という外的条件を取り立てているため、“能”が用いられる。“会”も用いられるが、この場合は、釈放が考えられる外的条件が備わっている前提の上で、「釈放を考える」という主体的な意志を取り立てる意味を表す。両者はともに用いられるが、法的な場合は“会”より客観性の高い外的条件を表す“能”を用いるほうがより適切であると考える。

このように、本稿の提案に基づけば、(15)、(16)の例における“能”と“会”の意味特性と使い分けを適切に捉えることができる。(15)、(16)の「考える」とは、主体的意志でコントロール可能な思考行為である。一方、主体的意志でコントロールすることが難しい、或いは不可能な知覚作用の例を観察しよう。

(17) a. 「駅には待合室が設置されている。」

一走进车站大厅，就能看到一间民工专用候车室。

(駅の中に入ると、すぐに出稼ぎ農民専用の待合室が見える。)

b. 「駅には待合室が設置されている。」

一走进车站大厅，就会看到一间民工专用候车室。

(駅の中に入ると、すぐに出稼ぎ農民専用の待合室が見える。)(=(6))

(17)の「見える」は、主体的意志ではコントロールしがたいため、「見る」意志の有無という可能の要因が際立たない存在である。それゆえ、どのように事を運ぶという状況の蓋然性、必然性による働きかけがしばしば際立つ要因となる。

(17a)では“能”を用いる場合は、「駅には待合室が設置されている」という外的条件により、駅の中に入ると、「待合室が見える」意味を表す。すなわち、(17a)は外的条件を取り立てている。

可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性（張素娟）

(17b)では“会”を用いる場合も、「駅には待合室が設置されている」外的条件が存在するが、それが前提条件とされている。(17b)はその前提条件に基づき、「駅の中に入る」という状況を取り立てている。「駅の中に入る」ことは蓋然性のある状況である<sup>10)</sup>。この場合は“会”は状況の蓋然性による働きかけを表すと考える。以下は“会”が使いにくい用例である。

(18) 从我家{能/\*会}看到富士山。(私の家から富士山が見える。)

(18)では、私の家の立地条件を取り立て、それにより富士山が自然に視野に入ること表すため、“能”を用いるのが自然である。ところが、以下の用例であれば、両者がともに用いられる。

(19) a. 「私の家は富士山の麓にある。」

抬起头就能看到富士山。

(顔を上げると、富士山が見える。)

b. 「私の家は富士山の麓にある。」

抬起头就会看到富士山。

(顔を上げると、富士山が見える。)

(19)のように家の立地条件に焦点を当てる場合は、“能”を用い、顔を上げるという蓋然性のある状況に焦点を当てる場合は“会”を用いる。(20)は類例である。

(20) 肉香气从家里一直飘进楼道，人人走进楼道都{会/能}不由自主深吸一下鼻子

(肉の香りは家から建物の通路まで漂ってきて、通路に入る人々は皆思わず

一度鼻で深く香りを吸う。) (= (7))

(20)では「鼻で吸う」ことは主体的意志でコントロールできるが、「思わず深く鼻で吸う」ことが主体の意志ではコントロールすることができない知覚作用による自発的な行為である。この場合は、「肉の香りは家から建物の通路まで漂ってきている」状況の働きかけに焦点を当てているため、“会”を用いるのが適切である。

以上の例が示すように、“能”は外的条件があるために可能に焦点を当て、“会”は主体的意志があるために可能を強調することが分かる。

## 5 さらなる検証

第4章の図1で示したように、外的条件が備わっているために可能であることに焦点をあてる場合は、“能”が用いられ、主体的意志または状況の働きかけのために可能であることに焦点を当てる場合は“会”が用いられる。本稿のこの提案は、前章で提示した例とは異なる事例からも支持される。以下でさらなる具体的な検証を試みたい。

### 5.1 事柄が主体的意志でコントロールできる場合<sup>11)</sup>

主体が事柄をコントロールできる場合は、動作の遂行や状態の成立が可能になる要因として

は、「外的条件」、「主体的意志」が考えられる。外的条件に焦点を当てているのか、或いは主体的意志に焦点を当てているのかは文脈によって異なる。

(21) 他{能/会}来。(彼は来ることができる。)

(22) A: 您对这里的印象怎么样?

B: 这是我第一次来这里, 我很喜欢这里, 我一定{会/\*能}再来的。(CCL)

A: (ここの印象はいかがですか?)

B: (ここははじめてですが、とても好きです。また必ず来ます。)

(23) A: 你怎么一个人?

B: 原打算同我一起来看望爹妈, 因厂里临时决定检修发电机械, 没准假, 他{不能/\*不会}来了。(CCL)

A: (どうして一人なの?)

B: (彼はもともと一緒に来るつもりでしたが、工場で臨時的に発電機械を点検修理することに決まり、休みの許可をもらえなかったので、来れなくなりました。)

(21)では焦点となる可能の要因を示す具体的な文脈が提示されていないため、両者はともに用いられる。しかし、(22)、(23)のように具体的な文脈がある場合は、焦点があてられる要因に基づき、“能”と“会”は使い分けられる。(22)では、「ここがとても好き」から「また必ず来る」という主体的意志につながるので、“会”が用いられる。(23)では「来るつもりがある」という主体的意志と「休みを許可しない」という外的条件がともに提示されているが、来る気がないのでなく、外的条件が備わっていないことが積極的に表現されているため、“不能”は適切である。さらに以下の用例を観察しよう。

(24) a. 电脑和手机, 你能买哪个?

(パソコンと携帯のどちらが買える?)

b. 电脑和手机, 你会买哪个?

(パソコンと携帯のどちらを買うだろう?)

(25) 文科和理科, 你{会/\*能}选哪个? (文系と理系、どちらを選ぶ?)

(24)では、両者がともに用いられるが、(25)では“会”しか用いられない。(24)では、「買う経済力がある」ことに焦点を当てる場合は“能”が用いられ、「どちらを買う」という主体的な意志に焦点を当てる場合は“会”が用いられる。即ち焦点が当てられる要因により、“能”か“会”のどちらかが選択される。(25)では、選ぶことができる範囲はすでに「文系と理系」として提示され、即ち、「文系と理系を選ぶことができるかどうか」という“能”ではなく、「どちらを選びたいか」という意志を表す“会”に焦点を当てている。したがって、“会”が用いられる。

次に、“会”が表す主体的意志の特徴を観察しよう。

(26) 能去, 但不一定会去。

(行けるが行くかどうかは分からない。)

(27) \*会去，但不一定能去。

(28) 会去，但今天不一定能去。

（行くけど、今日行けるかは分からない。）

(26)では、行く時間などの外的条件がある。しかし、行く意志があるかどうかは分からない。

(27)で分かるように、両者を置き換えると、文が成立しなくなる。すなわち、行く意志があるのに、行く外的条件がないという状況が成立しない。(28)では、行く意志があるが、今日は行く時間などの外的条件がない。もしくは、ほかの日なら行けるかもしれないということから、文が成立する。(26) - (28)から、“会”を用いて主体的意志を表す場合は、まず外的条件があるために可能と判断したことが前提となっている。なぜなら、一般的に考えれば、まず外的条件が備わって、はじめてするかしないかを決めるのが筋である。一方、“能”はただ外的条件を表すだけで、意思の有無とは関係がない。

(29) 他会来。(彼は来る。)(= (21))

(30) 文科和理科，你会选哪个？(文系と理系、どちらを選ぶ？)(= (25))

(29)では、“会”を用いる場合、すなわち、話者が彼は来るという外的条件があると判断したうえで、彼の来る気持ちがあることに焦点を当てる表現である。(30)では、文系と理系の中で選べるという外的条件があることが分かったうえで、どちらを選ぶのかと相手の意志を尋ねているのである。

## 5.2 事柄が主体的意志でコントロールできない場合

主体的意志で事柄をコントロールできない場合は、主体的意志という要因が弱くなり、事柄が可能となる主な要因としては、「外的条件」と「状況の働きかけ」が考えられる。状況の働きかけとは蓋然性状況の働きかけと必然性状況の働きかけの2種類を想定することができる。

### 5.2.1 外的条件と蓋然性状況の働きかけ

事柄が主体の意志でコントロールできないことは、すなわち、事柄が実現する可能性があるかどうかは外的条件が備わっているかどうかだけでなく、事が思った通りに運んでくれるかどうかという蓋然性状況にも影響される。“能”を用いる場合は、事柄が実現する条件が備わっていることを強調するが、“会”を用いる場合は、状況の蓋然性の働きかけにより、動作が生じる可能性があることを積極的に表現する。

(31) 这事{能/会}成。(このことはうまくいく。)

(32) a.你一定能成功的。(あなたは必ず成功できる。)

b.你一定会成功的。(あなたは必ず成功するのだ。)

(31)では、“能”を用いる場合は、なんらかの外的条件があるからうまくいくことを表し、“会”を用いる場合は、なんらかの条件があるかどうかを別にし、うまくいくように事が運んでくれ



るだろうという蓋然性状況の働きかけを表す。(32)では、“能”を用いる場合は、「あなた」に成功を収めるための外的条件が備わっていることを強調するが、“会”を用いる場合は、「あなた」が成功できるように事が運んでくれるはずであるという蓋然性状況の働きかけに対する話者の期待を表す。

(31)、(32)は文脈が明示されていない用例である。その場合は、両者がともに用いられるが、焦点が当てられる要因が異なる。次に、文脈が明示される用例を観察しよう。

(33) 一个厂如果领头人精明能干，效益就 $\{能/会\}$ 上去，否则效益就要下来。(CCL)

(もし工場の工場長が賢くてやり手であれば、利益を上げられるが、そうでなければ、利益は下がってしまう。)

(34) 我的车时速 120 公里，估计再有一个多小时就 $\{能/会\}$ 到。(CCL)

(私は時速 120 キロを出しているので、おそらくあと 1 時間ちょっとしたら到着できる。)

(35) 当你闭上眼睛，有人把一根粉笔放在你手上时，你 $\{会/能\}$ 觉得这东西又轻又硬。(CCL)

(目を閉じて、ある人が一本のチョークをあなたの手のひらに載せると、このチョークは軽くて硬いと感じるだろう。)

(33)では、利益が上がるかどうか工場長の能力と蓋然性によって決められる。「工場長は有能な人である」ことは、工場の利益が上がる外的条件として捉えれば、“能”を用いる。また、「工場長は有能な人である」という外的条件が備わっていることから、話者が工場の利益が上がる結果まで導いてくれるだろうと状況の働きかけを予測した意味として捉える場合は“会”を用いる。(34)では、主体は到着する意図を実現するために、「時速 120 キロで一時間ちょっとかかる」という客観的条件が必要という意味を積極的に表現しているため、“能”が相応しい。(35)では、「チョークは軽くて硬いと感じる」外的条件はチョークという物の性質である。したがって、ここでは、外的条件ではなく、「目を閉じて、ある人が一本のチョークをあなたの手のひらに載せると」という蓋然性状況の働きかけにより、「このチョークは軽くて硬いと感じる」という結果へ到達するという推測を表すため、“会”が用いられ、“能”とは相性が悪い。

## 5.2.2 外的条件と必然性状況の働きかけ

必然性状況の働きかけとは主に自然法則、自然科学などの法則と決まりごとの 2 種類が考えられる。以下でそれぞれを検証する。

(36) a. 用黄金做成的合金，「その性質により」会变成金黄色、红色、玫瑰色、灰色、绿色，一直变到白色。(CCL)

(金で作った合金は金黄色、赤色、バラ色、灰色、緑色になり、白色になるまで変色する。)

b. 用黄金做成的合金，「その性質により」能变成金黄色、红色、玫瑰色、灰色、绿色，一直变到白色。

可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性（張素娟）

（金で作った合金は黄金色、赤色、バラ色、灰色、緑色になり、白色になるまで変色できる。）

(37) a. 「水の性質により」水在摄氏 100 度时会沸腾。（CCL）

（水は摄氏 100 度で沸腾する。）

b. 「水の性質により」水在摄氏 100 度时能沸腾

（水は摄氏 100 度で沸腾しうる。）

(36)、(37)のように自然法則の働きにより、結果が自然に生じることを表す場合には、“会”を用いるのが普通である。結果状態が実現するために必要な条件を強調する場合は、“能”も用いることが可能である。(36a)では金と合金の性質から考え、その性質の働きかけにより、色は自然に白色になるまで変わるという必然性を表す。(36b)では、金で合金を作るという外的条件があれば、色は白色に至るまで変わることができるという意味を表す。(37a)では、水の特徴から、摄氏 100 度になれば、沸腾するという必然性結果が生じる意味を表す。(37b)では摄氏 100 度という条件が満たせば水は沸腾しうるという意味を表す。

次に、決まりごとによる必然性における両者の振る舞いの違いを検証する。

(38) 2020 年奥运会{会/\*能}在东京举行。

（2020 年のオリンピックは東京で開催することになっている。）

(39) 据悉,德国足协将{会/\*能}在 5 日召开一个全体大会来讨论新主教练的人选。（CCL）

（ドイツのサッカー協会は 5 日に全体大会を開き、新しいサッカーの監督の候補を検討するとのことである。）

(38)、(39)は蓋然性による動作・状態の可能を推測するのではなく、すでに決まっている予定や計画を伝えている。すでに決まっている予定や計画なので、一般的に考えれば、実現することは必然的である。この必然性状況の働きかけによって動作・状態が可能である意味が表されるため、“会”を用いるのが自然である。

### 5.3 まとめ

以上の考察から、動作・状態の可能の要因のうち、いずれの要因に焦点を当てるかにより、“能”と“会”を使い分けることが分かる。したがって、両者のどちらを用いるかは前後の文脈が大事である。文脈を考慮しない挙文のレベルでは、両者は形式的に置き換えられ、異なる意味を表す場合が多い。しかし、前後の文脈が与えられるならば、“能”と“会”のどちらが一番適切なのが決められる。また、本章で提示してきた例は、“能”は外的条件により動作・状態可能に焦点を当て、“会”は主体的意志或いは状況の働きかけにより動作・状態可能を強調するという本稿の主張を支持していると言える。

## 6 “能”の積極性とマイナスイメージを表す“会”

本稿の提案の帰結として、従来の研究で指摘されてきた「非期待的マイナスイメージ」を表す場合は“会”が用いられる<sup>12)</sup>こと理由を本質的に説明することができる。

(40) 贝帅哥关键时刻掉链子, 不知道{会不会/能不能}像 1998 年世界杯那样成为“衰哥”。  
(CCL)

(男前のベッカムは肝心なときにミスをしてしまい、また 1998 年のワールドカップの時のような不運な男になるかどうかは分からない。)

(41) 刀不磨{会/能}生锈。

(包丁は磨かなければさびが出る。)

(40)では、「不運な男になる」ことは、ベッカムにとっては望ましいことではない。しかし、「不運な男になるかどうか」は「ミスをする」という外的条件だけでは決められない。審判の判定や、観客の評価など蓋然性状況の働きかけも不可欠である。蓋然性状況は思う通りに事が運んでくれる場合とそうでない場合がある。思う通りに事が運んでくれない場合は、非期待的マイナスな結果が生じる。蓋然状況の働きかけは“能”ではなく、“会”のカテゴリになるため、“会”が適切である。(41)では包丁は磨かないとどうなるかは、包丁の材質や保存環境によって決められる。磨かないと、さびがでるかどうかは自然法則の働きかけによって決まる。したがって、“会”が用いられる。

(40)、(41)で示すように、蓋然性または必然性状況の働きかけにより、非期待的な結果が生じる場合がある。状況の働きかけによる可能を表す場合は“会”が用いられるため、非期待的マイナスイメージを表す場合は“会”が用いられる。

また、すでに先行研究<sup>13)</sup>で多く指摘されるように、“能”は積極性を表す。“能”が積極性の含意を伴う理由も本稿の提案で捉え直すことができる。このことを踏まえ、(40)、(41)は“会”の代わりに“能”を用いてみたら、意味がどのように変化するかを具体的に考察したい。

(42) <sup>?</sup>贝帅哥关键时刻掉链子, 不知道能不能像 1998 年世界杯那样成为“衰哥”。

(男前のベッカムは肝心なときにミスをしてしまい、1998 年のワールドカップのように不運な男になれるかどうかは分からない。)

(43) <sup>?</sup>刀不磨能生锈。(包丁は磨かなければさびが出ることができる。)

“能”を用いると、(42)では話者はベッカムが不運な男になることを期待しているニュアンスが含まれる。(43)では話者はさびが出ることを意図している意味を表す。しかし、一般的に考えれば、人の不運、包丁にさびが出る事は望ましいこととは考えがたいため、特別な文脈がないかぎりでは、“能”の容認度が低いと考える。

森田 1988:45 では、可能とは「当人が望み期待した状況に対して、その主体や対象が順応していき、期待どおりになっていく状況にある」と述べられている。すでに本稿の提案から分かるよ

うに、“能”は外的条件が備わっているため動作・状態が可能であることに焦点が当てられている。“会”は状況の働きかけのため可能であることに焦点が当てられている。状況の働きかけを変えることはできないが、外的条件が備わるよう積極的に努力するか、または備わっている条件に焦点を当てることを通して、望み期待した状況に対して順応していくことを表すことができる。したがって、“能”は積極性の含意を伴うと考えられる。

以下の典型的事例からも、“能”は積極性の含意を伴い、非期待のマイナスイメージを表す場合は“会”が用いられる言語事実が分かる。

(44) 我之所以下海，只是为了{能/\*会}更好地开发计算机，而不是为了赚钱。(CCL)

(商売を始めたのは、よりいっそうのコンピューターを開発するためだけで、お金儲けのためではない。)

(45) 一男司机为了{能/\*会}躲避酒驾处罚，竟然逃进了女厕所。(百度ニュース)

(ある男性運転手は飲酒運転の処罰から逃れるために、なんと女子トイレに逃げこんだ。)

(46) 我希望你以后不要再拿这种话劝我，免得我{会/\*能}恨你。(CCL)

(恨まれずに済むよう、今後はこんな話で私を説得しようとしなないで。)

(47) 我认为三姐应该另外嫁一个丈夫，免得她一天到晚{会/\*能}闷死了。(CCL)

(姉さんは一日中退屈で死にそうにならないように、ほかの旦那さんに嫁ぐべきだと思う。)

「非期待のマイナスイメージ」または「積極的」であるかどうかは、具体的な文脈がなければ判断し難い。しかし、(44)、(45)に見られる“为了”は目的を導く、すなわち、目的達成できるように主体が積極的に働きかける意味を表すため、“能”が用いられ、“为了会”という言い方は用いられない<sup>14)</sup>。(46)、(47)では、“免得”は「しないで済むように」を表し、基本的に非期待のマイナスイメージの事柄を取るため、“会”が用いられ、“能”を用いることはできない。

以上のように、本稿の提案の帰結として、“能”は積極性を含意し、非期待のマイナスイメージを表す場合は“会”が用いられるという言語事実は本稿の提案から自然に説明されることを示した。

## 7 おわりに

本稿は動作の遂行や状態の成立が可能になる要因を中心に、可能性を表す“能”と“会”の意味特性及び両者の振る舞いの違いについて論じてきた。考察の結果、“能”は外的条件があるために可能に焦点が当てられ、“会”は状況の働きかけのために可能に焦点が当てられるという結論が得られた。ここで、最後に再度この点について言及しておくことにする。

本稿の研究対象とする動作・状態の可能の要因として、外的条件、主体意志及び状況の働きかけが挙げられる。事柄の可能はこれらの要素のいずれも必要である場合が多いため、“能”と

“会”は形式上どちらも用いられる場合が多い。しかし、具体的な文脈が提示されることにより、焦点が当てられる要因を確定できるならば、“能”が用いられるか、“会”が用いられるかが決められる。外的条件があるために可能を強調する場合は“能”が用いられ、主体的意志、または状況の働きかけのために可能を表す場合は“会”が用いられる。また、すでに明らかにされたように“能”は積極性の含意を伴い、非期待的マイナスイメージの事柄は“会”が用いられる点も本稿の結論で捉え直すことを試みた。

本稿は“能”と“会”の肯定文を中心に考察したが、今後は、本稿で明らかになった“能”と“会”の意味特性と使い分けの分析結果に基づき、否定文や疑問文についてさらなる検証をしたい。

## <注>

- 1) “能”と“会”が表す可能には、さまざまな場合がある。“能”には大きく分けると「能力がある」、「可能性がある」、「許可」を表す場合があり、“会”には「技能がある」、「可能性がある」を表す場合がある。本稿では主に「可能性がある」場合に焦点を当て、考察する。
- 2) 本稿では「\*」はその表現が不成立、「?」は不適切であることを表すものとする。
- 3) 黄麗華 1995, 相原茂 1997, 鲁晓琨 2003でもマイナスイメージの事が起こる意味を表す場合、“会”が用いられ、“能”を用いることができないことを指摘している。
- 4) 許和平 1990:539, 鲁晓琨 2003:144を参照されたい。
- 5) 鲁晓琨 2003:47では、“能”は“能 m”(モダリティ表現)と“能 n”(非モダリティ表現)の二種類に分けられている。情報・知識・常識など信頼性のある客観的事実により VP は NP を実現できると判断した場合の“能”は“能 n”であり、モダリティ表現の“会”と置き換えることができない。生活経験により判断した場合の“能”は“能 m”である。
- 6) 張威 1998:29を参照されたい。
- 7) 鲁晓琨 2003:146では、NP が VP をコントロールできる場合は、“会”は主観的決定を推測することを通して、ある状況が生じる、または存在する必然性を推測する意味を表すと述べられている。本稿では、魯の主観的決定という言い方を放棄し、主観的意志という言い方を用いる。
- 8) 「能力」、「許可」を表す場合の“能”と“会”の使い分けがすでに先行研究で明らかにされているため、本稿では研究対象外とする。
- 9) 鲁晓琨 2003:44では“能”は NP が VP を実現する条件を備わっていると定義し、さらに、“能”が表す条件を以下のように分類している。  
她能说汉语。(内在的条件)「彼女は中国語を話せる。」  
她不能认错。(内在的愿望条件)「彼女は過ちを認めることができない。」  
她能来。(外在的条件)「彼女は来られない。」  
本稿は、“她不能认错”は内在的愿望条件ではなく、外的条件或いは容認を表すと考える。以下の具体的な用例を観察しよう。  
(i) 这件事不是她的错, 所以她不能认错。「この件に関して彼女は間違っていないので、過ちを認めてはいけない。」  
(i) の例では、“能”は願望を表すとは考えられない。外的条件がないか、または容認されていないかにより「過ちを認めてはいけない」意味を表すと考える。したがって、内在的愿望条件は“能”の基本義ではないと考える。
- 10) 「駅の中に入る」ことを外的条件として考える場合は、“能”を用いることが可能である。
- 11) 本稿では「事柄が主体的意志でコントロールできる場合」と「事柄が主体的意志でコントロールできない場合」に大別して考察する。この分類は鲁晓琨 2003:146では、“会”に対する分類に基づいたものである。
- 12) 黄麗華 1995:85-86, 相原茂 1997:36, 渡边丽玲 2000:152, 鲁晓琨 2003:159を参照されたい。
- 13) 渡边丽玲 2000:152, 鄭天剛 2002:146, 鲁晓琨 2003:53-58を参照されたい。
- 14) 《CCL 语料庫》と『日中対訳コーパス(第一版)』で調べた結果、“为了会”は一例も検索されなかった。

可能にかかわる要因から捉える“能”と“会”の意味特性（張素娟）

### <引用文献>

相原茂 1997.『謎解き中国語文法』。東京:講談社。

黄麗華 1995.「中国語の可能表現の“能”、“可以”、“会”」,『日本語研究』15号:78-87頁。

森田良行 1988.『日本語の類義表現』。東京:創拓社。

張威 1998.『結果可能表現の研究』。東京:くろしお出版。

渡边丽玲 2000.「助动词“能”与“会”的句法语义分析」,『现代中国语研究论集』: 147-156頁。

鲁晓琨 2003.《现代汉语基本助动词语义研究》。北京:中国社会科学出版社。

許和平 1990.〈汉语情态动词语义和句法初探〉,《第三届国际汉语教学讨论会论文选》: 537-552頁。

鄭天剛 2002.「“会”与“能”的差异」,『似同实异-汉语近义表达方式的认知语用分析』: 137-148頁。

### <例文出典>

《CCL 语料库》北京大学汉语语言研究中心

百度: <http://www.baidu.com/>

※出典が明記されていない例は筆者による作例である。

主指導教員（朱繼征教授）、副指導教員（大竹芳夫教授・秋孝道准教授）